

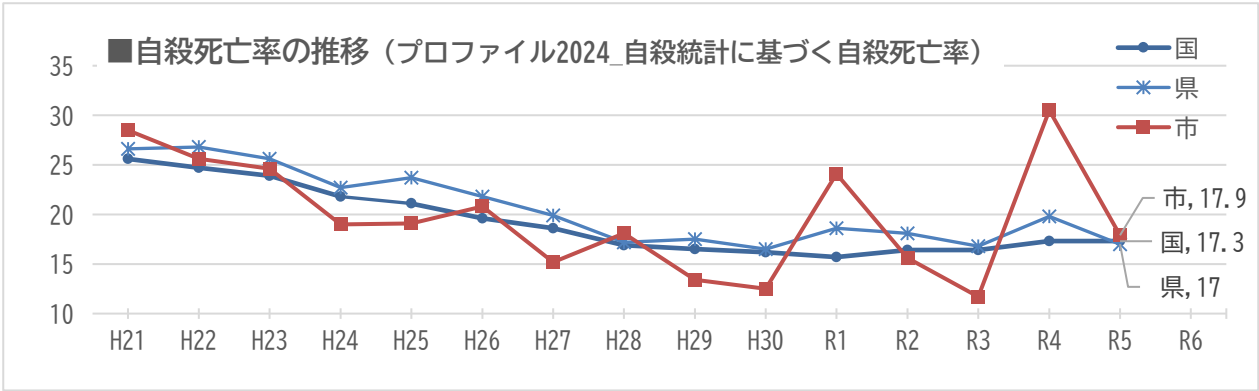
本市における自殺の現状について

1 自殺者数の推移

- 厚生労働省は令和 6 年の自殺者数について、20,320 人と前年に比べ減少し、令和元年（20,169 人）に次いで過去 2 番目に少なかったとしている。
- 本市の令和 6 年の自殺者数は前年と比較して増加し、増減を繰り返し推移している。

区分		令和 2 年		令和 3 年		令和 4 年		令和 5 年		令和 6 年		5 カ年 平均 (人)
		人数 (人)	対前年 比(%)	人数 (人)	対前年 比(%)	人数 (人)	対前年 比(%)	人数 (人)	対前年 比(%)	人数 (人)	対前年 比(%)	
国	総数	21,081	4.5	21,007	△0.4	21,881	4.2	21,837	△0.2	20,320	△6.9	21,225
	うち男	14,055	△0.2	13,939	△0.8	14,746	5.8	14,862	0.8	13,801	△7.1	14,281
	うち女	7,026	15.4	7,068	0.6	7,135	0.9	6,975	△2.2	6,519	△6.5	6,945
県	総数	295	△3.6	271	△8.1	318	17.3	270	△15.1	257	△4.8	282
	うち男	218	△5.6	175	△19.7	226	29.1	203	△10.2	174	△14.3	199
	うち女	77	2.7	96	24.7	92	△4.2	67	△27.2	83	23.9	83
肝属	総数	24	△25.0	26	8.3	35	34.6	26	△25.7	31	19.2	28
	うち男	16	△33.3	17	6.3	22	29.4	17	△22.8	21	23.5	19
	うち女	8	0.0	9	12.5	13	44.4	9	△30.8	10	11.1	10
鹿屋市	総数	16	△36.0	12	△25.0	31	158.3	18	△41.9	22	22.2	20
	うち男	11	△42.1	7	△36.4	19	171.4	12	△36.8	16	33.3	13
	うち女	5	△16.7	5	0.0	12	140.0	6	△50.0	6	0	7

- ※令和 6 年の自殺者数
- ・「国」は「警察庁自殺統計原票データ」より厚生労働省が作成した資料から引用（確定値）
 - ・「県」「肝属圏域（鹿屋市・垂水市・東串良町・錦江町・南大隅町・肝付町）」「市」は、警察庁のデータより厚生労働省が作成した「地域における自殺の基礎資料（発見日・住居地）」を参照（確定値）
- ※令和 2 年～令和 5 年の自殺者数
- ・「国」は「警察庁自殺統計原票データ」より厚生労働省が作成した資料から引用（確定値）
 - ・「県」「肝属」「市」は「地域自殺実態プロファイル 2024 付表 4 自殺者の推移（自殺統計 自殺日・住居地）」から引用



2 自殺者数の推移（性・年代別）

○性別では国と同様に女性よりも男性が多い傾向が続いている。

○令和6年は、70代男性の増加が顕著であった。過去5年の男性高齢者の自殺者割合も高くなっている。

○本市では、小中学生の自殺者はいないものの、国においては増加傾向にあり令和6年は過去最多であった（令和6年小中高生の自殺者数：確定値 529 人 前年比+16 人）

（単位：人）

		令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	5か年計	
							人数	割合
総数	20 歳未満	1	0	3	1	2	7	1.4
	20 歳代	5	1	4	1	1	12	2.4
	30 歳代	1	0	5	3	1	10	2
	40 歳代	4	3	3	6	3	19	3.8
	50 歳代	2	0	2	2	2	8	1.6
	60 歳代	1	4	4	2	3	14	2.8
	70 歳代	2	1	5	1	7	16	3.2
	80 歳以上	0	3	5	2	3	13	2.6
	合 計	16	12	31	18	22	99	19.8
うち 男性	20 歳未満	1	0	1	0	0	2	0.4
	20 歳代	2	0	3	1	1	7	1.4
	30 歳代	1	0	2	3	1	7	1.4
	40 歳代	4	1	3	4	2	14	2.8
	50 歳代	2	0	1	1	2	6	1.2
	60 歳代	0	2	2	1	1	6	1.2
	70 歳代	1	1	3	1	7	13	2.6
	80 歳以上	0	3	4	1	2	10	2
	小 計	11	7	19	12	16	65	13
うち 女性	20 歳未満	0	0	2	1	2	5	1
	20 歳代	3	1	1	0	0	5	1
	30 歳代	0	0	3	0	0	3	0.6
	40 歳代	0	2	0	2	1	5	1
	50 歳代	0	0	1	1	0	2	0.4
	60 歳代	1	2	2	1	2	8	1.6
	70 歳代	1	0	2	0	0	3	0.6
	80 歳以上	0	0	1	1	1	3	0.6
	小 計	5	5	12	6	6	34	6.8

※令和6年の自殺者数

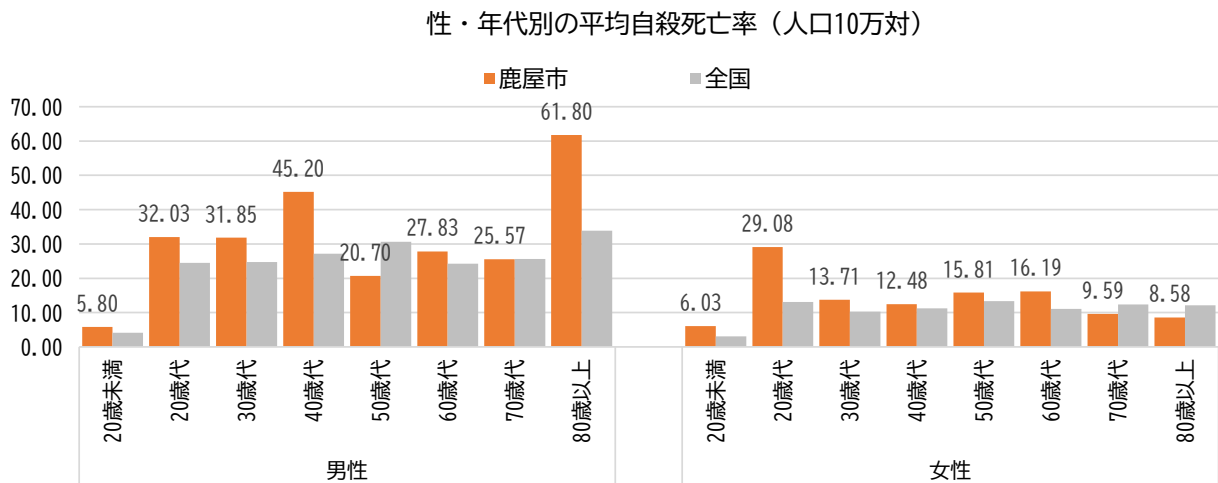
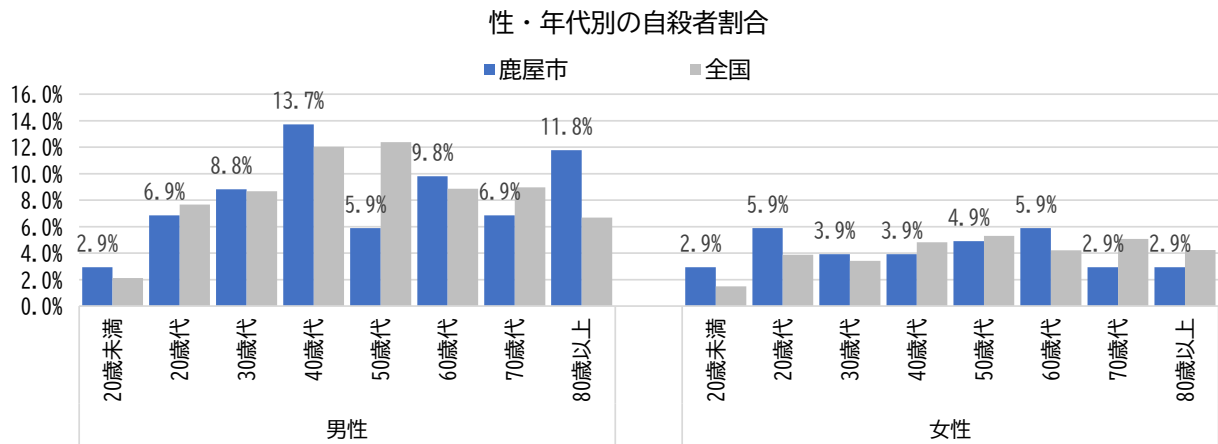
警察庁のデータより厚生労働省が作成した「地域における自殺の基礎資料（自殺日・住居地）」から引用（確定値）

※令和2年～令和5年の自殺者数

「地域自殺実態プロファイル 2024 付表4 自殺者の推移（自殺統計自殺日・住居地）」から引用（確定値）

＜参考＞

性・年代別の自殺者割合及び平均自殺死亡率（2019～2023 年）〈地域における自殺の基礎資料（自殺日・住居地）〉



※性・年代別の自殺者割合は、全自殺者に対する割合を示す。

※出典：地域自殺実態プロファイル 2024（全般的な状況 図 3-2）より抜粋

3 自殺の原因動機

○令和6年は、男性は健康問題、勤務問題、女性は家庭問題による自殺が増加した。

○国においては「健康問題」「家庭問題」「勤務問題」による自殺が減少し、「学校問題」による自殺が最も増加している。その内訳をみると、学友との不和（いじめ以外）、進路に関する悩み（入試以外）が増加している。

（単位：人）

		令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	5か年計	
							件数	割合
総数	家 庭 問 題	3	2	11	3	5	24	4.8
	健 康 問 題	2	6	24	5	10	47	9.4
	経済・生活問題	3	4	3	6	4	20	4
	勤 務 問 題	2	0	9	5	5	21	4.2
	男 女 問 題	1	0	0	2	3	6	1.2
	学 校	1	0	1	0	0	2	0.4
	そ の 他	1	1	2	1	2	7	1.4
	不 詳	8	3	3	3	0	17	3.4
	合 計	21	16	53	25	29	144	28.8
うち 男性	家 庭 問 題	1	0	6	0	1	8	1.6
	健 康 問 題	0	2	14	3	8	27	5.4
	経済・生活問題	2	3	3	6	4	18	3.6
	勤 務 問 題	0	0	8	4	5	17	3.4
	男 女 問 題	0	0	0	1	1	2	0.4
	学 校	1	0	0	0	0	1	0.2
	そ の 他	1	1	0	1	2	5	1
	不 詳	7	3	2	2	0	14	2.8
	合 計	12	9	33	17	21	92	18.4
うち 女性	家 庭 問 題	2	2	5	3	4	16	3.2
	健 康 問 題	2	4	10	2	2	20	4
	経済・生活問題	1	1	0	0	0	2	0.4
	勤 務 問 題	2	0	1	1	0	4	0.8
	男 女 問 題	1	0	0	1	2	4	0.8
	学 校	0	0	1	0	0	1	0.2
	そ の 他	0	0	2	0	0	2	0.4
	不 詳	1	0	1	1	0	3	0.6
	合 計	9	7	20	8	8	52	10.4

※動機が複数ある場合は、複数計上

※令和6年の自殺の原因・動機

警察庁のデータより厚生労働省が作成した「地域における自殺の基礎資料（自殺日・住居地）参照（確定値）

※令和2年～令和5年の自殺の原因・動機

警察庁のデータより厚生労働省が作成した「地域における自殺の基礎資料（自殺日・住居地）参照（確定値）

<参考>

本市の主な自殺者の特徴（2019-2023年合計） <個別集計（自殺日・住居地）>

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率* (人口10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:男性 60歳以上無職同居	15	14.7%	44.7	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
2位:男性 60歳以上無職独居	11	10.8%	122.0	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
3位:男性 40～59歳有職同居	10	9.8%	23.6	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
4位:男性 20～39歳無職同居	5	4.9%	136.6	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の不和→孤立→自殺 ②【20代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺
5位:男性 20～39歳有職独居	5	4.9%	53.1	①【正規雇用】配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺 ②【非正規雇用】（被虐待・高校中退）非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺

資料：警察庁自殺統計原票データをいのち支える自殺対策推進センター（以下、JSCP）にて個別集計

・区分の順位は自殺者数の多い順で、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。

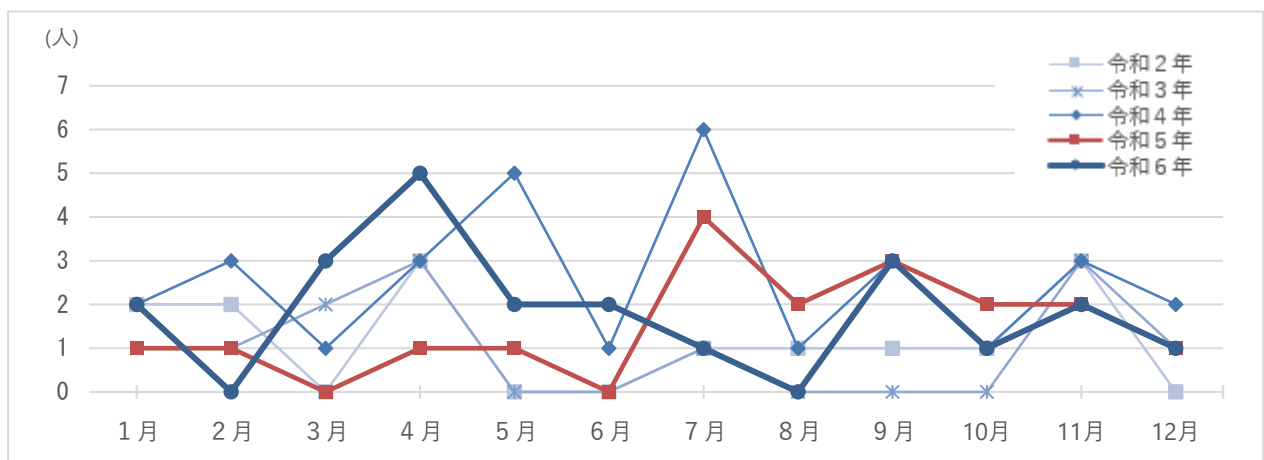
* 自殺死亡率の算出に用いた人口は、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を基にJSCPにて推計したもの。

** 「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定したもの（詳細は付表の参考表1参照）。自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではないことに留意。

※出典：地域自殺実態プロファイル 2024（地域の自殺の特徴 表1-1）より抜粋

4 月別自殺者数の推移

○令和6年の月別の自殺者数は、4月が最も多かった。国でも4月に多い傾向にある。



※警察庁のデータより厚生労働省が作成した「地域における自殺の基礎資料」より

5 本市と国との比較(令和6年まとめ)

項 目		国	鹿 屋 市
自 殺 者 数 ^{*1}		・ 20,320 人 ・ 対前年より 6.9%減少	・ 22 人 ・ 対前年より 22.2%<u>増加</u>
自殺者に占める項目別割合	男 女 別 ^{*1}	・ 男性女性共に減少 ・ 男性は女性の約 2.1 倍 (男性 13,801 人、女性 6,519 人)	・ <u>男性は増加、女性は横ばい</u> ・ 男性は女性の 2.7 倍 (男 16 人、女 6 人)
	年 齢 階 級 別 ^{*1}	・ 80 歳以上の男性と <u>20 歳未満の女性で増加</u> ・ <u>50 歳代が最も高く</u>、40 歳代、70 歳代と続く	・ <u>男性は 70 歳代で増加</u> ・ <u>女性は 20 歳未満、60 歳代で増加</u>
	職 業 別 ^{*1}	・ 無職者が 10,800 人で、前年と比べ 666 人減少 ・ 有職者が 8,092 人で、766 人減少	・ 無職者が 11 人 (主に年金・雇用保険等生活者) ・ 有職者が 11 人
	自 殺 の 原因・動 機 ^{*1}	・ 健康問題、<u>経済・生活問題</u>、次いで家庭問題の順が多い	・ 健康問題が最も多く、<u>勤務問題</u>、家庭問題と続く
	同 居 の 有 無 ^{*2}	・ 同居人有が 12,809 人 ・ 同居人無が 7,388 人 ・ 不詳が 123 人	・ 同居人有が 17 人 ・ 同居人無が 5 人

※国

※ 1 : 警察庁自殺統計原票データより厚生労働省が作成した令和 6 年(確定値)と令和 5 年(確定値)の比較参照

※ 2 : 警察庁のデータより厚生労働省が作成した「地域における自殺の基礎資料(令和 6 年発見日 性別・年齢階級×同居人の有無他)」参照

※市: 警察庁のデータより厚生労働省が作成した「地域における自殺の基礎資料(自殺日・住居地)」参照

○本市の自殺者に占める項目別割合では、
「男性」「高齢者」「働く世代」の特性を持つ人の自殺が多い。